

宮城野区榴岡地区民生委員児童委員協議会

(平成 25 年 3 月 15 日掲載)

榴岡地区は、仙台駅の東方に位置し、平地に商業地区と住宅地域があります。榴岡地区民児協は 30 名の委員で構成されています。

震災直後、地区にある榴岡小学校には、怖くて自宅に戻れない被災者や交通機関の不通で帰宅困難になった方がた 2,500 名以上が避難してきました。2 週間にわたり学校の体育館等を開放していただき、民生委員・児童委員も学校の教職員や町内会等とともに避難所運営の支援にあたりました。学校側の献身的な活動には特に感謝しています。

震災により、家屋の全壊 2 件、半壊 17 件、マンションの半壊も相当数ありました。一見すると被害のないようなマンションも、4 階以上の部屋の中は茶箆筍などの家具類、冷蔵庫、テレビ等の転倒等があり、私たち委員も片づけの支援等に奔走しました。また、津波被害のなかった榴岡地区には、震災後に多くの世帯が転入され、榴岡小学校も 40 名ほどの児童が転校してきています。学校との連絡協議会において定期的に子どもたちの様子について情報共有を図っています。

現在、被災された方々の多くが抱えているのは、住居についての課題だと思われます。震災以前の居住地に戻りたくても戻れないもどかしさ、新たに家を建てるにも高齢だからと躊躇する気持ち、2 重ローンの問題など、住まいに関わる心配の声をよく聞きます。

榴岡民児協では、震災前から社協等と共同で「ふれあい・いきいき食事サロン」を行なっています。榴岡地区を 3 つのブロックに分け、それぞれに年 3 回程度、食事会とともに笛演奏の鑑賞やお笑いのステージの開催などを行なっています。各回に約 90 名ほどの高齢者が参加しています。震災後には、避難されてきている方にも参加を呼びかけています。また、小学生約 80 名と 75 歳以上の高齢者が小学校に集まって、踊りや歌の催し物も行ないながら、一緒に給食を食べるサロンも行なっています。

榴岡地区民児協では、震災以前より 27 名の福祉委員と連携して活動していました。今後も引き続き、福祉委員や町内会、社協等と連携しながら活動を続けていきたいと思えます。震災はまさかというときに起こります。全国の皆さんには予防について意識していただきたいと思えます。また、榴岡地区民児協としても、次にくるかもしれない震災に備え、被害を大きくしないための予防について取り組めないか、考えたいと思っています。



△▽小学校でのサロンの様子

